『使徒ペテロとアンデレの異教徒の町への伝道物語』スラヴ写本の比較研究[1]

三谷惠子

1. 使徒アンデレとアポクリファ伝道物語

「スィノプ（現トルコ）で学んでいたアンデレはケルソンを訪れ, そこからドニエプルの河口までほど近いことを知って, ローマに行きたいと願っていたのでドニエプルの河口に至った。川を上っていくと, 川をのぞんで聳える山のふもとに至った。翌日山を見て周囲の人々に, いつかここは大きな町となり，神が幾つもの教会をお建てになるだろうと語った。そして山に登り祝福すると十字架を立てて神に祈り，山を降りたが，そこは後年キエフとなった。」そしてアンデレはそこからさらに川を上り，スロヴェネ人やヴァリャーギのところに行き, のちにローマに着いてから, そこで見聞きしたことを人々に語った…[2]——ロシア原初年代記には, このような聖アンデレのルーシ来訪のエピソードが記されている。

キリスト教世界では, 紀元後 3〜4 世紀頃までにイエスの使徒たちを主人公としたさまざまな伝道物語や予言書, 殉教物語が作られた。聖書正典ではシモン・ペテロの兄弟として現れるもののそれほど目立たつ存在ではないアンデレについても, その伝道や殉教を題材にした聖者伝的物語のほか,『アンデレとバルトロマイの物語』,『アンデレとパウロの物語』,『アンデレとマティアスの人食い人の町への伝道物語』など, アンデレを主要登場人物とした“アンデレ・シリーズ”が現れた。[3] 上記のアンデレによるルーシ訪問のエピソードがどのようにして形成されたかは不明だが, アンデレ伝説の中でこの使徒は, 黒海沿岸を旅した伝道者として知られており, [4] それがロシアに伝わって年代記にあるような

[1] 本論は 2017 年 10 月 15 日上智大学で開催された日本ロシア文学会全国大会で行なった口頭発表 Кэйко Митани, Лингвистический и текстологический анализ славянских списков повествования «Деяния апостолов Петра и Андрея в стране варваров» , ならびにこれをもとにした論文 Текстологический и лингвистический анализ списков «Деяний апостолов Петра и Андрея в стране варваров» // Труды Института Русского Языка им. В. В. Виноградова. Выпуск 16. Лингвистическое источниковедение и история русского языка. (2016-2017). 2018. С.158-171. にさらに論考を加え, 論文として書き改めたものである。

[2] Повесть временных лет / *Лихачев Д.С*. Подгот. текста, пер., ст. и коммент. 2-е изд. СПб., 1996. С. 9.

[3] James Keith Elliott, *The Apocryphal New Testament: A Collection of Apocryphal Christian Literature in an English Translation* (Oxford: Clarendon Press, 1993), p. 240.

[4] *Понырко Н.В., Паченко А.М*. Апокрифы о Андрее Первозванном // *Лихачев Д.С.* Словарь книжников и книжности. Вып. 1. Л., 1987. С. 49-54.

記述が形成されたものと考えられる。

『使徒ペテロとアンデレの異教徒の町への伝道物語』は, そのような使徒アンデレのアポクリファ伝道物語の一つで, 聖アンデレが兄弟ペテロとともに「異教徒」の町に赴き, そこで起こす奇跡を語っている。スラヴ世界にはギリシャ語テクストからの翻訳写本が 4 点知られているが, クロアチア・グラゴル派による 16 世紀初めの写本 1 点のみが完全なもので, ほか 3 点は 12〜17 世紀ロシアの断片的写本である。現在に至るまで, この物語のスラヴ写本はあまり注目されておらず, 4 写本すべてを扱った研究は行われていない。本論ではこれら 4 写本を比較してその関係をあきらかにし, このテクストの最初のスラヴ語訳について考察する。

2. 物語, 翻訳, 先行研究

2-1. 物語

『使徒ペテロとアンデレの異教徒の町への伝道物語』[5]（以下 Acts of Apostles Peter and Andrew to the City of Barbarians を略して APA）は, 初期キリスト教時代に作られたイエスの使徒たちの伝道物語の一つで, 使徒アンデレが活躍するもう一つのアポクリファ伝道物語『使徒アンデレとマティアスの人食い人の町への伝道物語』[6] の続きであるかのように始まる――人食い人の町への伝道の旅を終えて天に戻ったアンデレとマティアスがほかの使徒たちとの再会を喜んでいると, そこにイエスが現れ, アンデレとペテロには, 異教徒 (βάρβαροι) の町に主の教えを広めよという使命が与えられる。ふたたび旅に出たアンデレは, 途上ペテロに「また私たちには苦難が待ち受けているのでしょうか, そこにはどんな風習があるのでしょう, やはり人食い人がいるのでしょうか」などと言葉をかける。このような物語の始まり方のため, APA は「使徒アンデレとマティアスの人食い人の町への伝道物語」の続編, もしかしたらもともと一続きの話の後半であったかもしれないという

[5] ロシア語では «Деяния апостоловъ Петра и Андрея в стране барбаров»。N. チホヌラーヴォフはこのタイトルを用いている: *Тихонравов Н.С.* Памятники отреченной русской литературы. Т. 2. М., 1863. С. 5-10.; また『ペテロとアンデレ, マティアス, ルフォス, アレクサンドロスの物語』(Слово святых апостол: Петра и Андрея, Матфея и Руфа, и Александра) とされた写本もある: *Понырко Н.В.* Слово святых апостол: Петра и Андрея, Матфея и Руфа, и Александра // *Лихачев.* Словарь книжников и книжности древней Руси. Вып. 1. С. 439-441. クロアチアでは Apocrifna djela apostolska Petra i Andrije として知られる。

[6] この物語 (Πράξεις Ἀνδρέου καὶ Ματθεία εἰς τὴν πόλιν τῶν ἀνθρωποφάγβν; ロシアでは Деяния апостолов Андрея и Матгея в городе антровофагов) は APA 同様ギリシャ語で書かれたと考えられるが, テクストは APA よりはるかに広く流布し, ラテン語版, またシリア, エジプト, ジョージア, エチオピア, アルメニア, アラビア各言語およびスラヴ語訳が存在する。スラヴ圏ではロシア, 南スラヴ・キリル文字圏, またクロアチア・グラゴル文字圏 (Apokrifna djela Anderije i Mateja u gradu ljudoždera) に伝わっており, 全体で APA よりはるかに多くの写本が知られている。

見解が出された。しかしこれとは異なり, まず『アンデレとマティアス』がおそらく 3 世紀頃に作られ, のちにこれを補う意図で APA が作られたのではないかという考えもある。[7] 2 つのテクストの伝播の異なりを考えると後者の見解の方が信頼できるように見えるが, もちろん最終的な答えは出ていない。

いずれにせよ, この冒頭に続いて APA の本編となるのだが, こちらは異教徒の前でペテロとアンデレが起こしてみせる 3 つの奇跡によって構成される。最初の奇跡は, 町の前に 2 人が到着したところで起こる。伝道の成否を案ずるアンデレに, 町の門の前で畑を耕す老人を見たペテロが言う—彼にパンを乞うて, もし良い返事をもらえたなら伝道もうまく行くだろう。そして声をかけてみると, 老人は二人にパンを与えることを快く約束し, 町に入って行く。二人が喜び, 無為に老人の帰りを待つのはよくないと畑を耕し始めると, たちどころに麦が育ち穂をつけ, 老人が戻った時には実った麦が収穫されていた。これが第 1 の奇跡である。老人は畏怖の念に打たれ, 町に行ってこの奇跡を人々に伝える。しかしキリスト教を嫌悪する町人たちは使徒の到来を嫌がり, 純潔をよしとする彼らを脅して退散させようと, 町の門の前に裸の娼婦を立たせる作戦に出る。これを見たアンデレは, 大天使ミカエルの力を借りて裸婦を空中に吊り上げ, その間に使徒たちは町に入る。この裸婦宙吊りが第 2 の奇跡となる。町に入った使徒たちは人々を帰依させるが, オニシフォルという名の金持ちはあくまでもイエスの教えを否定して, ペテロと言い争う。そしてペテロが嘆息してつぶやく福音書のことば—「富んでいる者が天国にはいるよりは, らくだが針の穴を通る方がやさしい」（マタイ 19, 24; ルカ 18, 25）—を耳にとめ, ならばラクダに針の穴を通らせてみせよと迫る。絶望したペテロが天のイエスに向かって助けを請うと, ここに第 3 の奇跡がおこる。すなわち人々が用意した小さな針の穴が見る間に大きくなり, 文字どおり門となってラクダがそこを通り抜けるのだった。頑なだったオニシフォルも, この奇跡を目の当たりにしてついにキリスト教に改宗する。

2-2. 翻訳と先行研究

APA はギリシャ語 (Πράξεις τῶν ἁγίων ἀποστόλων Πέτρον καὶ Ἀνδρέα), エチオピア語, アラビア語, そしてスラヴ語訳で知られているが, 原典はギリシャ語で 4 世紀頃に作られたと考えられる。[8] エチオピアやアラビア版テクストには, アンデレの代わりに使徒タダイ

[7] Elliott, *The Apocryphal New Testament,* p. 240.

[8] Constantin von Tischendorf, *Apocalypses apocryphae: Mosis, Esdrae, Pauli, Iohannis, item Mariae dormitio, additis evangeliorum et actuum apocryphorum supplementis* (Lipsiae: Hermann Mendelssohn, 1866), pp. 161-167.; Maximilianus Bonnet, Ricardus Adelbertus Lipsius, Constantinus von Tischendorf, *Passio Andreae. Ex actis Andreae. Martyria Andreae. Acta Andreae et Matthiae. Acta Petri et Andreae. Passio Bartholomaei. Acta Joannis. Martyrium Matthaei* (Leipzig: Mendelssohn, 1898), pp. 117-127. ギリシャ語テクスト（ティシェン

(Thaddeus, Фаддей) が登場し, それとともにテクストに改変のあるヴァリアントが存在する。[9] エチオピア語テクストは S. マランにより英訳されており, [10] いっぽうアラビア語版の英訳は A. ルイスに読むことができる。[11]

スラヴ世界でこの物語は現在 4 つの写本によって知られているが, ロシア写本の存在について最初に言及したのは 19 世紀の N. チホヌラーヴォフおよび V. ワシリエフスキーであり, [12] これらは N. ボンヴェチによって西欧に紹介された。[13] スラヴ圏ではさらにその後, K. イストミンが 12 世紀頃の最古の写本（後述の F46）を刊行した。[14] これら以外に APA についてのロシアの研究はほとんどない。このように注目されないままであったのはおそらく, ロシア写本がいずれも断片で研究材料が乏しく, 校訂版を作る見込みがないと判断されたためと推測される。今日に至るまで, スラヴ語版 APA についてのもっとも詳しい分析は 1967 年の B. グラバルによるものだが, [15] こちらはクロアチア・グラゴル写本の分析に焦点があり, ここにはロシア 12 世紀の写本は考察に含まれていない。いっぽうロシアの過去の研究では, グラゴル写本についてはその存在も言及されていない。[16] 本稿ではこうした研究の “穴” を埋めるべく, 現存するこの 4 点のスラヴ写本を比較し, これらが同一の起源から生じており, ロシア写本の中ではもっとも新しい 17 世紀の写本がより古い形を残していることを示す。

3. スラヴ写本

3-1. クロアチア・グラゴル写本

ドルフ 1866 版ボドリアン写本）は A. ウォーカーが英訳している: Alexander Walker, *Apocryphal Gospels, Acts and Revelations* (Edinburgh: T&T Clark, 1870), pp. 368-373.

[9] Elliott, *The Apocryphal New Testament*, pp. 231-244 (とくに 242-243).; Solomon Malan, *The Conflicts of the Holy Apostles: An Apocryphal Book of the Early Eastern Church* (London: D. Nutt, 1871), pp. 221-229.; Agnes Lewis, *The Mythological Acts of the Apostles: Translated from an Arabic MS. in the Convent of Deyr-es-Suriani, Egypt, and from MSS in the Convent of St. Catherine on Mount Sinai and in the Vatican Library* (London: C.J. Clay and Sons, 1904), pp. 120-125.

[10] Malan, *The Conflicts*, pp. 120-125.

[11] Lewis, *The Mythological Acts*.

[12] *Тихонравов.* Памятники.; *Васильевский В*. Русско-византийские отрывки. V. Хождение апостола Андрея в стране Мирмидонян // Журнал Министерства народного просвещения. Ч. 189. Январь. СПб., 1877. С. 41-82; 58-76.

[13] Nathaniel Bonwetsch, “Ein Beitrag zu Akten der Petrus und Andreas,” *Zeitschrift für Kirchengeschichte*. Bd. 5. 1882, pp. 506-509.

[14] *Истомин К*. Из славянорусских рукописей об апостоле Андрее. СПб., 1904, С. 11-14.

[15] Biserka Grabar, “Apokrifna Djela apostolska u hrvatskoglagoljskoj literaturi 1. Djela Andrije i Mateja u gradu ljudoždera 2. Djela apostola Petra i Andrije,” *Radovi Staroslavenskog instituta*, Vol. 6. 1967, pp. 109-208.

[16] たとえば *Понырко*, Слово святых апостол; *Понырко, Панченко*, Апокрифы о Андрее Первозванном.

APA のほぼ完全なスラヴ語訳は, 16 世紀クロアチア・グラグゴル派による世俗文集の一つであるジュゴンビチ文集 (Žgombićev zbornik, HAZU XII. 30) に含まれている。グラバルによれば, ジュゴンビチの APA は, 15 世紀頃に作られたギリシャ語版バチカン写本と極めて近く, スラヴ版 APA はこの系譜のテクストから訳されたと考えられる。[17]

ジュゴンビチ文集は, 1882 年にダルマチア北部クルク島のフランシスコ会派修道院で I. ミルチェティチによって発見された。文集名は, 発見当時の修道院長の名にちなむ。文集は紙に書かれ, 全部で 1+125 葉あるが, 中身は 16 世紀の異なる時代に作られた写本群 3 つからなり, 16 世紀末に一つのコーデクスにまとめられたものである。[18] APA は 100-106 葉にあり, コーデクスの中でもっとも古い 1520〜30 年頃に作成されたグループに属すると見られる。ジュゴンビチ集の成立はイストラ半島東部というのが有力な見方である。[19]

ここではまず, ジュゴンビチ写本の APA（以下 CŽg）の言語特徴をグラバル（1967）に依拠してまとめる。なお CŽg の引用は, グラバルのラテン文字翻字版による。[20]

音韻特徴としては, 土着方言の明らかな影響が確認される。スラヴ祖語の *ě は大部分の場合 e で表記される: vem’ [21]< vědĕti (OCS вѣдѣти) ; delateli (OCS дѣлатель)。しかし i の反映形も確認される: vrime (OCS врѣмѧ)。 両者の現れ方は, e が 103 例に対し i が 13 例, 後者のうち vrĕmen-語幹で vrime になる例が 2 例, 残りは e の反映形と競合する: viditi (1x) — videti (2x), na nivi (1x) — na nive (2x), skozi (3x) — skoze (3x) など。本来の ě （すなわちѧ）

---

[17] ギリシャ語のクリティカルエディションは Bonnet, Lipsius, Tischendorf, *Passio Andreae*, pp. 117-127 にある。これは 12 世紀のボドリアン写本 (Baroccianus 180) をもとに, 15 世紀のバチカン写本 (Cod Vaticanus gr. 1192) により補足・修正を行なったもの。本論ではこれを BLT として APA ギリシャ語テクストを引用する際に参照する。グラバルはこれらギリシャ語写本をグラゴル写本と比較し, CŽg がバチカン版と近いとした。たとえば物語の冒頭部で CŽg には kade bĕ Petarь i Matei i Alek’san’darь i Rupь「ペテロとマティアス, アレクサンドロス, ルフォスがおり」とあり, バチカン写本の Πέτρος καὶ Ματθείας καὶ Ἀλέξανδρος καὶ Ῥοῦφος と一致するが, ボドリアン写本ではルフォスの名が欠落している。詳細は Grabar, “Apokrifna Djela apostolska,” pp. 179-180.

[18] この文集は, そのほかの 15〜16 世紀に作られたクロアチア・グラゴル世俗文集と同じように, さまざまなジャンルの半世俗的テクスト（Lucidar とよばれる百科事典的な内容のテクスト, 旧約・新約聖書由来のアポクリファや聖人伝的伝説物語）を含む。

[19] Ivan Milčetić, “Prilozi za literaturu hrvatskih glagoljskih spomenika III. Hrvatski Lucidar,” *Starine* 30. 1902, pp. 257-334.; Vjekoslav Štefanić, *Glagoljski rukopisi Jugoslavenske akademije.* II (Zagreb: JAZU, 1970), pp. 40-45.; Sandra Sudec, “Naknadni zapisi u Žgombićevu zborniku i mjesto njegova nastanka,” *Slovo*, Vol. 62. 2012, pp. 233-234.; Vesna Stipčević Badurina, “Glagoljski Žgombićev zbornik kao književni izvor,” *Kolo*, 2. 2015. [http://www.matica.hr/kolo/460/glagoljski-zgombicev-zbornik-kao-knjizevni-izvor-24950/] (2017 年 8 月 20 日閲覧).

[20] 以下の CŽg についての言語特徴の詳細は Grabar, “Apokrifna Djela apostolska,” pp. 165-174.

[21] “ ’ ” （アポストロフ）は, もとのグラゴル写本に書かれているもの。中世クロアチア・グラゴルテクストでは, しばしば, おもに形態素境界や語末で古い ь が (’) に置き換えられ, たとえば boimь se に代わり boim’ se のように書かれた: Stjepan Damjanović, *Jezik hrvatskih glagoljaša* (Zagreb: Matica hrvatska, 2008), pp. 53-54. CŽg でもそのように書かれており, グラバルも原文の’を翻字テクストにそのまま採用している。

がそのまま記される例は bě, v skrbe velicě などに見られる。起源的 e に ě が書かれる例は 4 件: tvoritě, semeně, petrě (2x)。2 つのイェル (ъ, ь) は, 母音化するさいには 規則的に a になる: starac' (OCS старьць), dan' (OCS дьнь)。*dj の反映形は j: viju (OCS вижду), osvoboju (OCS освобождѫ)。また ž は r で現れる: ne moremo (103r)。

形態的にも, 古い形式と新しい形の競合が観察される。たとえば男性名詞単数処格で v dome (o-stem 語尾）— v domu (u-stem 語尾), 人称代名詞男性単数生格で ego — nega。また動詞 1 人称単数現在語尾は, 幹母音型の -u とならび, 非幹母音型の-m'の拡張も見られる: govoru, stvoru — boim' se, učinimь。アオリストはほとんどの場合 s-アオリスト: idoh', rekoh'; vzradovaše だが, 同時に otrekos'mo se のような新しい方言形も見られる。[22] 未来時制の表現にはしばしば hotěti が用いられる: ako oćeš poiti i prnesti namь 「もしあなたが行って私たちに持って来てくれるなら」 (p. 201); hoću iti i prinesti vam' brašna「あなたたちにパンを持って来ましょう」 (p. 201)。ただしとくに行為者の意図性がない場合, biti を用いた形も現れる: bude li nam' muku trpeti totu (p. 201)「私たちはあそこでも受難に耐えなくてはならないのでしょうか」。

古教会スラヴ語の伝統に方言要素が混在している状況は語彙面にも反映されており, たとえば関係代名詞に古い iže（男性単数主格）と並行して方言形 ki, ka が現れる: Se ap(osto)li vhodetь vь gradь odpušćajuće grehi i celajuće vsaku bolezan' iže verujutь va ne. (p. 204)「ごらんなさい, 使徒たちが町に入り, 彼らを信じる人々の罪を許しあらゆる病を癒していくのです」— Patapiosь niki ki biše slišalь od Pilipa naukь evanj(e)lski i verovaše v G(ospod)a Is(u)h(rьst)a... (p. 205)「ピリポから福音の教えを聞いていて主イエスを信じていたパタピオスという者が...」。疑問代名詞「何」も čьto とチャ方言形 ča の両方で現れる: Što hoćeši stvoriti ...「何をしようというのか」— I ovo stvoriše ča zapovede imь (p. 205)「そして（町の人々は）彼らに（その男が）語ったことを実行した」。

こうした言語特徴はいずれも, CŽg が古教会スラヴ語と, クロアチア・チャ方言でおもに*ě>e の反映形をもつ土着方言との混合言語で書かれていることを示している。

CŽg の由来については, この写本のもとにキリル文字テクストがあったとグラバルは指摘している。 その証拠の一つは, 数に関する間違いである。[23] 場面は第 3 の奇跡のエピソードの中, ペテロが起こして見せた, らくだと針穴の奇跡を見たオニシフォルが, 自分の富を放棄することを決意し imamь . . . četrdesetь i devetь literь zlata i srebra (p. 206)「私は 49 リブ

[22] 中世クロアチア・グラゴル派による世俗文書では共通してアオリスト形に不定詞語幹の後ろに 1 人称単数-[o]h, 2,3 人称単数-[o]Ø, 1 人称複数-[o]smo, 2 人称複数[o]ste, 3 人称複数-[o]še, 1 人称双数-[o]sva, 2,3 人称双数-[o]sta が現れる。[o]は不定詞語幹が子音で終わる場合に挿入される。この形は 13 世紀頃から現れる: Stjepan Damijanović, *Jezik hrvatskih glagoljaša* (Zagreb: Matica Hrvatska, 2008), p. 120.

[23] Grabar, "Apokrifna Djela apostolska," p. 165.

ラ（ポンド）の金と銀を持っている」と話すのだが, この箇所に対応するギリシャ語は εἴκοσι ἑπτά（=27）である。[24] この違いは, キリル文字とグラゴル文字の数の表し方の違いに起因するとグラバルは推測する。 つまりもとのスラヴ語訳キリル文字版では.кз҃.（=27）と, ギリシャ語を正しく訳してあったものを, グラゴル派の写字生がグラゴル文字体系の数表記にしたがってⰊ (к＝40) ＋ⰡⰡ (з ＝ 9)と“正しく” 読み, そのまま文字に綴ったというわけである。クロアチア・グラゴル派のさまざまな世俗テクストの中には, 西方カトリック教会文化から伝わったものがあるいっぽうで, 東方教会キリル文字圏からもたらされたものもある。[25] この歴史的事実を考え合わせると, CŽg もキリル文字写本から伝えられたという推測は十分信頼性があると言える。

3-2.　古ロシア写本

古ロシア写本は 3 本残されている。[26]

F46 – ロシア国立図書館, Ф. п. I. 46 (Златоструй краткой редакции и отрывок сборника), 12 世紀, f.112-112v.

S – ロシア国立図書館, Соф. 1261 (Сборник поучений Кирилла Туровского), 14-15 世紀, f.25-25v.

T – ロシア国立図書館, Ф. п. 1. 39 (Толстовский сборник), 17 世紀。

すでに述べたようにこれらはいずれも断片で, F46 は第 2 の奇跡のエピソードの途中, 使徒を追い払うために人々が合議する場面から始まり, 第 3 の奇跡のエピソードの途中で終わっている。F46 の直前には『聖使徒ペテロとパウロの物語』の断片, またすぐ後には『預言者イリヤの伝記』断片があり, いずれも同じ手で書かれていることから, これらはまとめて別の先行するコーデクスから写されたと推測される。S も話の前半と末尾を欠き, しかも F46 よりはるかに短いが, 途中から始まるにもかかわらずその冒頭には «Слово сѵ҃го

[24] ロシア写本で該当箇所を含むものはない。

[25] Vjekoslav Štefanić, *Hrvatska književnost srednjega vijeka* (Zagreb: Marica Hrvatska,1969), p. 13.; クロアチア・グラゴル派の非正典テクストが南スラヴの東方教会文化圏から伝播している具体例はたとえば三谷恵子「『十二の金曜日の物語』スラヴリセンション写本の比較研究」『ロシア語ロシア文学研究』68 号, 2016 年, 1-23 頁; Keiko Mitani, “The Croatian Tradition of *the Story of Akir the Wise* in the South Slavonic Recensions,” *Slovo*. No. 67, 2017, pp. 1-21.

[26] これらのコーデクスの記述は *Гранстрем Е.Э.* Описание русских и славянских пергаментных рукописей. Рукописи русские, болгарские, молдовлахийские, сербские. Л., 1953. С. 19, 59.; *Творогов О.В.* Древнерусские четьи сборники XII-XIV вв. Статья первая // Труды Отдела древнерусской литературы. 1988. Т. 41. С. 197-214 (とくに 198-199; 205). なお本論で F46 と S は原本を参照。T は *Тихонравов,* Памятники, С. 5-10 に依拠する。F46 は *Истомин,* Из славянорусских рукописей, С. 11-14.また *Творогов О.В.* Древнерусские четьи сборники XII-XIV вв. Статья третья // Труды Отдела древнерусской литературы. 1993. Т. 47, С. 30-32.（一部）にも刊行されている。F46 の原本は 1 ページ 2 列で書かれているため, 本論引用箇所は f.112c（＝112v 左列）のように示す。

апола петра и андрѣꙗ»とタイトルが記されている。ロシア写本でもっとも新しい T は冒頭から始まり, その最初には Слово ст҃ый а҃пл҃ъ, петра и а҃дрѣа ...と書かれているが, 第 3 の奇跡のエピソードのはじめで途切れている。[27] ロシア写本に残されている部分を CŽg, またそれに最も近いギリシャ語ヴァチカン写本と比較すると図 1 のような関係になる。

＜図 1. APA の写本 4 点の関係＞

	タイトル	第 1 の奇跡	第2の奇跡	第3の奇跡
ギリシャ写本	πράξεις τώς ἁγίων ἀποστόλων Πέτρου καί Ἀνδρέα	→	→	→
CŽg	Čtenie st̄ago An'dreê apustola	→	→	→
F46	—		—	—
S	Слово ст҃ого а҃пла Петра и А҃ндрѣꙗ		—	—
T	Слово ст҃ы а҃пл҃ъ Петра и А҃дрѣа, Матфеа и Руѳа и Александъдра	—	—	—

ロシア写本の言語特徴については, F46 および S に関して以下の点を挙げるにとどめておきたい。3 つのうち最古の F46 は, 言語的古さすなわち古教会スラヴ語の伝統をよく保ち, しかし同時に 11～12 世紀のロシア語要素も含む。2 つのイェルは基本的に維持され, おおむね予想される位置に現れる: ѡ мънѣ; гла҃хоу горе намъ чьто сътворимъ чл҃вкомъ симъ (112a); ѡни же възьрѣвъше (112a); тъгда възъпи жена гла҃мь великъмь (112b) 。脱落の例は少ないが съ всѣмь градъмь симь (112b); мнозѝ (112b) などに見られる。鼻母音起源の 2 つのユースのうち, 文字 ѫ , ѭ は用いられず, 代わりに/u/を表すため оу, ю が用いられる。ѧ は/a/を表し, 軟子音の後の位置で現れる: въходѧщихъ (112b); ненавидѧть (112a); дивлахоу (112b) など。本来 ѧ が期待される位置で, 口蓋摩擦音（いわゆる щипяшие）の後ろでは а が, また語頭および母音の前ではꙗが現れる: гл҃аша (112a); прѣдаша (112b); чаду (112a); вьсакы ꙗзѧ (112b); чл҃вкы сиꙗ (112a); съ неꙗ (112a)。е > о あるいは щ > ч といった, “ルシズム”（ロシア語的要素）として指摘される音変化は文字に現れていない: ѥдинъ, нощю。また 母音重複形も用いられない: градъ, посредѣ вратъ градьныхъ (112a); за власы (112b); влачаше (112d)。しかしながら*tъrt/*tьrt 音節はロシア語式の正書法で現れる: навьрже на выю аньдрѣѡви (112c); жестосьрдыи (112c)。また男性・中性名詞単数造格形もロシア語式の正書法で現れる: и

[27] *Тихонравов*. Памятники. С. 5.

златъмь и бисьръми; дх҃ъмь ст҃ымь (112b)。ロシア語的特徴は*dj の反映形にも見られ, 古教会スラヴ語の **жд** ではなく **ж** が現れる: **вижю тѧ** (112c); **одежу** (112b)。以上の特徴は, 最古期のロシア文語テクストのものと概ね一致する。[28]

S は次節でも示すように, F46 にごく近い写本で, 言語特徴もほぼ共通する。ただしイェルの用法は F46 よりはるかにゆらいでおり, 語末での **ъ** の脱落や, **ъ** と **ь** の混同: **створиши** (F46 **сътвориши**), **ѿрекохомсѧ** (F46 **ѿрекохомъсѧ**); **в градѣ томъ** (F46 **въ градѣ томь**) が目立つ。また F46 ではイェルで書かれている箇所が母音化しているケースも見られる: **исполнисѧ** (F46 **испълнисѧ**), **наверже** (F46 **навьрже**)。ほかに, 2 人称代名詞単数与格にロシア語形の **тобѣ** が見られる (F46 **тебѣ**)。このように S は F46 に比べるとロシア化のプロセスが進んだ状況を反映したものとなっている。

4. 写本の比較

この節では 4 写本の系譜関係を検討する。まず 4-1 でロシア 3 写本, 4-2 で CŽg とロシア写本を比較し，これらがすべて同一のスラヴ語訳テクストに発していることを確認し, つぎに 4-3 で CŽg とロシア写本間の, また 4-4 でロシア写本内の異読を見る。それらをふまえて 4 写本の系譜関係を示す。

4-1. ロシア 3 写本の関係

スラヴ語版 APA は, ロシア写本がいずれも断片であること, クロアチア・グラゴル写本はほぼ完全であるが言語がかなり方言化していることから, これまでグラバルのものを除くと行われてこなかった。しかし断片の比較でもテクスト間の関係を再構成することは可能である。まずロシア語写本間の関係を特定するために, S と F46 で対応する部分を比較してみよう。

F46	S
Бѣ же тоу нѣкто ба҃тъ сы въ градѣ томь именьмь ѡнисифоръ сь вида знамение бываюма ѿ ап҃лъ и гл҃а имъ аще вѣроую въ ба҃ вашего могоу ли и азъ таково знамение створити ꙗко же и вы гл҃а юмоу анъдрѣꙗ аще ѿречешисѧ всѣхь своихъ и же҃ны и дѣти и ꙗкоже и мы ѿрекохомъсѧ тако и тъ	**Бѣ же ту нѣкто б҃атъ сы в градѣ томъ именемь ансифоръ се видѧ знаменые бываюма ѿ апл҃ь и гл҃а имъ. аще вѣроу въ б҃а вашего могу ли и азъ таково знамѧные творити ꙗкоже и вы гл҃а юму андрѣꙗ аще ѿрешѝи сѧ всѣ҃ своихъ жены и дѣти ꙗкоже и мы ѿрекохомсѧ тако и ты св҃ориши тоже**

[28] 11-12 世紀のロシア語の特徴については *Дурново Н.* Русские рукописи XI и XII вв. как памятники старославянского языка // *Дурново Н.Н.* Избранные работы по истории русского языка. М., 2000, С. 491-494.

сътвориши знамение тоже (f.112c)	знаманые (f.25)

「その町にオニシフォルという金持ちがいたが, この者は使徒たちによって神の奇跡がなされるのを見て, 彼らにこう言った—もしお前たちの神の教えを信じたら私もお前たちと同じように奇跡をなせるのか。するとアンデレは, もし私たちがそうしたように, あなたが自分のものや妻や子供たちを捨てれば, 私たちと同じように奇跡をなすことができるだろう」

一見してわかるように, F46 と S はわずかな正書法上の異なり (именьмь-именемь, знамение-знаменые) や形態, 語順の異同 (ѡнисифоръ- ансифоръ,створити- творити, знамение тоже - тоже знаманые) などを除くとほぼ完全に一致し, S が F46 と同じかあるいはきわめて近い写本から作られたことは間違いないと言える。

また F46 と T も, 成立年代の違いにもかかわらずかなりの類似性を示す。例として町にやってきた使徒たちをいかにして追い払うかを人々が相談する場面をとってみよう。

F46	T
обращемъ блоудьницю добрѣишю паче всѣхъ и тоу поставимъ посредѣ вратъ градьныхъ нагоу ꙗко чаду оукрашьше бисъръмь главы еꙗ и выю ѡниже възьрѣвъше на ню и побѣгноуть и не възнидоуть въ градъ нашь (f.112a)	ѡбращете блꙋ̑ницꙋ добрѣишоу паче всѣхъ и тоу поставѝ посредѣ вратъ гра̑ныхъ нагу. и оукрасимъ ю бисерѡ̀ и помажѐ главоу еѧ мастию. ѡни же возрѣвше на ню и погибноут и не внидоу̑т во гра̑ нашъ. (p. 9)

「とびきりの娼婦を見つけて, 幼子のように裸のまま町の門のところに立たせよう, ＜F46 頭と首を＞真珠で飾り＜T 油を塗って＞。そうすれば彼らは女を見て＜F46 逃げ出し/ T 命を落とし＞私たちの町には入ってこないだろう」

ここに見られる違いは, たとえば F46 にあるꙗко чаду が T になく, また F46 の分詞による оукрашьше бисъръмь главы еꙗ и выю は, T では動詞現在人称形を述語とする文になっている: оукрасимъ ю бисерѡ̀ и помажѐ главоу еѧ мастию. また T では F46 にない「頭に油を塗ろう」が加わっており, F46 の動詞 побѣгноуть「逃げるだろう」が T では погибноут「命を落とすだろう」で現れる, などにある。[29] とはいえ, これに続く部分は, ほぼ同一である。

[29] CŽg では [...] ukrasiv'še ju i nagu postavimo ju pred vrati grada i oni ne vniduti gradь naš (p. 203)「彼女に飾りをつけさせ裸で町の門前に立たせよう, そうすれは彼らはこの町に入ってこない」。これは BLT とほぼ一致する：[...] γυναῖκαν πόρνην εὔμορφον, καὶ ταύτην παραθήσομεν εἰς τὴν πύλην τῆς πόλεως γυμνήν, τῷ σχήματι κεκοσμημένην καὶ βλέψαντες αὐτὴν φύγωσιν τοῦ μὴ εἰσελθεῖν εἰς τὴν πόλιν ταύτην. (p. 122)。したがってロシア写本にある「幼子のように」や「真珠で飾り」などはスラヴ写本がロシアに伝わる中で付け加えられたものと推測される。

F46	T
ѡниже въскорѣ ѡбрѣтоша женоу любодѣицю. и сънемъше съ неꙗ ѡдежоу и оукрасиша ю зѣло златъмь н бисьръмь. ꙗко наоучени быша и поставиша ю посредѣ вратъ градьныхъ (f.112a)	ѡниже скоро ѡбрѣтоша жену любодѣицу и снаша с неѧ ѡдежу и оукрасиша ю злато̑ и бисеро̑ ꙗко наоучени быша и поставиша ю посредѣ вратъ гра̑ны (p. 9)

「彼らはすぐに娼婦を見つけてきて, 女から服をぬがせ, そして言われたとおりに彼女を金と真珠で飾り, 町の門のところに立たせた」

このような一致の存在は, 両者が同一写本に由来することを確かに裏付けるものといえる。

4-2. CŽg とロシア写本

上記では, ロシア 3 写本が同一の起源をもつことを確認した。次に CŽg とロシア写本を比較してみよう。まず CŽg と F46 を第 3 の奇跡のエピソードのはじめの部分で比較する。

CŽg	F46
I bě v gradu tomь č(lově)kь bogatь velmi imenemь Onisiporь. Videvь znameniê ot ap(osto)lь i reče imь: veruju v B(og)a vašego ako mogu znamenie stvoriti kako vi tvorite. (p. 204)	Бѣ же тоу нѣкто ба̑тъ сы въ градѣ томь именьмь ѡнисифоръ сь видѧ знамениѥ бываѥма ѿ апл̑ъ и гл̑а имъ аще вѣроую въ ба̑ вашего могоу ли н азъ таково знамениѥ створити ꙗко же и вы (f.112c).

「その町にオニシフォルという金持ちがいた。使徒たちによって奇跡がなされるのを見ると, 彼は彼らに言った。＜CŽg もしお前たちがなすような奇跡が私にもできたらお前たちの神を信じよう / F46 もしお前たちの神を信じたら私もお前たちが行なったと同じように奇跡がなせるのか ＞

ここに引用した箇所の異なりでは, 語彙 (CŽg ako, kako, reče－F46 аще, ꙗко, глагола) や構文上の違い (CŽg : veruju v B(og)a vašego ako mogu znamenie stvoriti－F46: аще вѣроую въ ба̑ вашего могоу ли и азъ таково знамениѥ створити) [30] などがただちに指摘できるが, これらはリセンションの異なる写本に由来するというほど大きな差異ではない。また上記引用に続く部分は, 両者でほぼ一致している。

[30] BLT は Ἐὰν πιστεύσω εἰς τὸν θεὸν ὑμῶν δύναμαι ποιῆσαι χἀγὼ σημεῖον ὡς καὶ ὑμεῖς; (p. 123)「もし私がおまえたちの神を信じたなら...」, CŽg は仮定と帰結が反対になっており, ここはロシア語版のほうがギリシャ語に近い。

CŽg	F46
I reče An’drei: Ašće otrečeši se vsego imeniê svoego i ženi i čedь svoihь kako i mi otrekos’mo se tagda stvoriši znameniê kako i mi. (p. 204)	гл҃а ѥмоу анъдрѣꙗ аще ѿречешися всѣхъ своихъ и жены и дѣти и ꙗкоже и мы ѿрекохомъся тако и тъ сътвориши знамение тоже (f.112c)

「するとアンデレは言った, 私たちがそうしたように＜CŽg 自分の財産と/ F46 自分のもの全てと＞妻と子たちを捨てれば, あなたも私たちのように奇跡をなすことができる」

このような一致はこれらが同系統の写本に由来していることを強く示すものであろう。

CŽg と T でも同一起源であることを確認しておこう。話の冒頭で使徒たちが異教徒の町に赴く場面を比較する。[31]

CŽg	T
Petarь i An’drei i Alek’sandarь i Matei i Rup’ idoše v gradь barbarski. I biv’šimь nimь bliz’ grada toga i reče An’drei Petru: Brate Petre, bude li nam’ muku trpeti totu kako sam’ ju ja trpelь v gade č(lově)koêdac’? I reče nemu Petarь: Ovo e č(lově)kь starь pred’ nami na nivi svoei. (p. 201)	апл҃и же поидоша во гра҃ варварьски. ї бысть приближающи҆йся ѝ ко гра҃у ї гл҃а а҆дрѣи к петрови. имам ли брате петре брашно какѡ҃ ѡбычаи во гра҃е то҃. градъ бо сии чл҃коѧдець, и рече петръ азъ не свѣмъ брате оно пре҃ нами старець дѣлаѧ на селѣ своемъ (p. 5/6)
ペテロとアンデレとアレクサンデルとマタイとルフォスは異教徒の町に向かった。彼らが町に近づくとアンデレはペテロに言った—兄弟, ペテロよ, あそこでも人食い人の町であったような苦しみに出会うのでしょうか—するとペテロは彼に	使徒たちは異教徒の町にやってきた。彼らが町に近づくとアンデレはペテロに言った—私たちは, 兄弟ペテロよ, 糧を得られるでしょうか。あの町にはどんな風習があるのでしょう, あの町も人食い人の町でしょうか。するとペテロは言った—私に

[31] 当該箇所の BLT は Πέτρος δὲ καὶ Ἀνδρέας καὶ Ἀλέξανδρος καὶ Ῥοῦφος καὶ Ματθείας ἐπορεύθησαν εἰς τνὴ πόλιν τῶν βαρβάρων. ἐγγισάντων δὲ αὐτῶν τῇ πόλει ἀποκριθεὶς δὲ ὁ Ἀνδρέας εἶπεν τῷ Πέτρῳ. Πάτερ Πέτρε, ἆρά γε ἔχομεν πάλιν κόπους ὑπομεῖναι ἐν τῇ πόλει ταύτῃ ὡς καὶ ἐν τῇ χώρᾳ τῶν ἀνθρωποφάγων; (p. 118)「そしてペテロとアンデレ, アレクサンデル, ルフスとマティアスは異教徒の町へと向かった。そして町の近くに来ると答えてアンデレはペテロに尋ねた, 父ペテロよ, 私たちはまたこの町で, あの人喰い人の町であったような難儀を被るのでしょうか?」。この部分は全体として CŽg がより近く, ロシア写本の「糧を得られるでしょうか...」はどこかで書き換えが起こった結果と考えられる。

言った―私たちの前に畑仕事をしている老人がいる。	はわからない, 兄弟よ, 私たちの前に, 自分の村で仕事をしている老人がいる。

CŽg では冒頭で使徒の名を列挙しているが T ではただ апостолы としているのみである。またアンデレがペテロに語りかける言葉にも違いがある。しかし両者が同じ起源テクストをもつことは, 同じところに独立与格構文が用いられている点: T бысть приближающїйсѧ ѝ ко грѧ̑ду; CŽg biv'šimь nimь bliz' grada toga,[32] またギリシャ語テクストではアンデレがペテロを Πάτερ Πέτρε「父」と呼んでいるのに対し, スラヴ語版ではどちらも брате Петре / Brate Petre「兄弟」としている点などから, ほぼ確かと考えられる。

以上から, 4 つのスラヴ写本はいずれもただ一つのスラヴ語訳から派生したと判断される。そこでこのスラヴ語訳原本を仮に QS として, 次節ではさらにスラヴ写本内部の異読について検討する。

4-3. CŽg とロシア写本の異読

4 写本が QS から発しているとはいえ, これまで見てきたとおり, これらの間には異読が存在する。CŽg は言語的に大幅に書き換えられており, とくに語彙に関してはチャ方言要素がかなり用いられているが, その点は別として, 内容に関わる部分にも異なりがある。CŽg とロシア写本の違いを, 再度, 第 2 の奇跡に関する部分で比較してみよう。ロシア写本で比較できる範囲が限られるため, ここでは 4-1 で例示した箇所を挙げる。まず CŽg でこの箇所は次のとおり。

CŽg naidimo ednu ljubodeicu ukrasiv'še ju i nagu postasvimo ju pred vrati grada i oni ne vniduть v gradь naš'. I ovo stvoriše ča zapovede imь i postviše ju nagu pred vrati. (p. 203)

「娼婦を一人見つけて飾りをつけさせ, この町の門の前に裸で立たせよう, そうすれば彼らは町に入ってこないだろう。そして彼らは言われたとおりにして, 女を裸で門の前に立たせた」

いっぽう, F46 と T では, 先に示したとおりである―

F46	T
обращемъ блоудьницю добрѣишю паче всѣхъ и тоу поставимъ посредѣ вратъ градьныхъ нагоу ꙗко чаду оукрашьше бисъръмь главы еꙗ и выю	ѡбращете блꙋ̑ницу добрѣишоу паче всѣхъ и тоу поставѝ посредѣ вратъ грѧ̑ныхъ нагу. и оукрасимъ ю бисерѡ̀ и помажѐ главоу еѧ мастию. ѡни же

[32] 対応箇所の BLT では独立属格句（注 31 の ἐγγισάντων δὲ αὐτῶν τῆ πόλει）。

ѡниже възьрѣвъше на нїю и побѣгноуть и не възнидоуть въ градъ нашь. ѡниже скоро ѡбрѣтоша жену любодѣицу и снаша с неѧ ѡдежу и оукрасиша ю златꙋ̑ и бисерꙋ̑ ꙗко надоучени быша и поставиша ю посредѣ вратъ гра̑ны. (f.112a)	возрѣвше на нїю и погибноут и не внидоу̑т во гра̑ нашъ.ˣ ѡниже скоро ѡбрѣтоша жену любодѣицу и снаша с неѧ ѡдежу и оукрасиша ю златꙋ̑ и бисерꙋ̑ ꙗко надоучени быша и поставиша ю посредѣ вратъ гра̑ны. (p. 9)

ロシア写本で下線を引いた部分の「誰より美しい」「＜F46頭を＞真珠で飾り」や「彼女から服を剥ぎとり教えられたとおり金と真珠で飾って」などは CŽg にはない。BLT にもこれらに該当する文言はない。[33] つまりこれらは後から追加された文言であり, これをもっとも単純に考えると, 原文のギリシャ語テクストを忠実に訳した QS から, 一方ではこれをほぼそのまま写した写本が, 他方ではこれに書き換えを加えたものが発生し, 前者は CŽg へ伝わり, また後者はロシア写本の系譜となった, という推測が成り立つ。このことは T と CŽg の異同でも確認される。ここも町の人々が, 使徒対策議論をしている箇所である。

T	CŽg
ї҆ниѝ гла̑хоу токмо ѕ҃е. мужеи да ш҆е̑ оубъемъ ихъ ї҆ни гла̑хоу мы слышахꙋ̑ имѣют оучителѧ глаголемаго и҆с҃а ї҆ что хотѧтъ то и творѧ̑ и егоже просѧтъ и послоушаетъ ѝ и егда прогнѣвдемъ ѧ то погубѧтъ гра̑ нашъ без останка. или потопъ наведоутъ на гра̑ нашъ (p. 8)	A drugi rekoše .d. muži nihь e(stь) šad'še ubiimo e. A ini rekoše ne moremo ih' mi ubiti. Slišasmo koga učitela imaju I(su)sa imenemь i čakole prosetь od nego dastь imь kada sprosetь. Eda kako ogan' sprosetь od nego i sažgutь nasь. (p. 203)

「別の者たちは, たった 5 人だ, 殺してしまおうと言った。しかし別の者たちは言った—聞いたところでは, 彼らの師はイエスという者で, 彼らが願えばそれを聞き入れ, そのため彼らはなんでも望むことができるそうだ。＜T もし我らが彼らを怒らせれば＞彼らは＜T この町を跡形もなく滅ぼすか, でなければ町に大水をもたらすだろう/ CŽg もし彼らが火を望めば私たちは焼き殺されてしまうだろう＞」

使徒がもたらすであろう災いについて, T では потопъ наведоутъ на гра̑ нашъ, いっぽう CŽg では Eda kako ogan' sprosetь od nego i sažgutь nasь と語っているが, ここに対応する箇所の BLT は πῦρ αἰτήσωνται 「もし火を頼めば」で, CŽg がオリジナルの読みを反映し, ロシア

[33] BLT, p. 121.; Grabar, "Apokrifna Djela apostolska," p. 203.

版の「大水」のほうが改変されていることになる。[34] これによっても, QS から写本の系譜が 2 つに分かれていたという上記の推測が補強されるといえるだろう。

4-4. ロシア写本内の異読の示唆するもの

最後にロシア写本内の異なりとそこから考えられる写本の系譜関係について考えてみたい。次の CŽg は第 2 の奇跡のエソード最初の場面である。

CŽg Molju te, G(ospo)dine Is(u)h(rьst)e pošli an'j(e)la tvoego Mihaila da obesit' ju za vlasi na aere dokle vnidemo v gradь i propovemo e(van)j(e)lie c(ěsa)rьstvie b(o)žiê. i prileti an'jelь i postavi ju va aeri visoko za vlasi (p. 203)

「主なるイエスよ, どうか, あなたの天使ミカエルを遣わし, 彼女の髪を引っ張って空中に吊るしてください, その間に私たちが町に入って神の王国についての福音を語れるように。そして天使が訪れ, 彼女の髪を引っ張って空中高くに吊り上げた」

いっぽうこれに対応する F46 と T はつぎの通り。

F46	T
поусти михаила//архистратига да wбѣсить жену сию за власы на wблацѣ донъдеже вънидемъ въ градъ сь и проповѣмы слово истиньноѥ и ѥгда исходѧще из града повелимъ ю сънѧти съ wблака (112a//b)	пусти михаила архистратига. да wбисит жену сию за власы на аерѣ дондеже внїмъ во грⷭ҇ди. и прѡпопвѣдаемъ слово бж҃ие и егда изыдемъ из града и да снидѣ со аера. (p. 9)

ここで用いられている「空中に」に注目すると, CŽg ではギリシャ語形の aer, いっぽう F46 はこれに意味的には対応するが別語根の облакъ「雲」, そして T では CŽg と同じ аеръ である。F46 と T の異なりは, CŽg で脱落している後半部分の<F46 ѥгда сънѧти съ wблака/ T снидѣ со аера>「F46 空から降ろすよう／T 降りるよう」にも見られる。この部分は BLT で ἐρχομένων δὲ ἡμῶν τότε καταβήσεται ἐκ τοῦ ἀέρος (p. 122)「私たちが出るときに（彼女が）空から降りるよう」とあり, F46 は分詞 (исходѧщѥ) を用いている点で BLT と共通するとはいえ, T のほうが構文的に BLT と並行し, また аер を用いている。これらを考慮すると T のほうが BLT により近いと判断できる。つまりギリシャ語テクストにあった ἀήρ はそのままスラヴ語でも аеръ と訳され, これが CŽg, T には反映され, F46 の読みはこれを oblak に置き換えた結果と推測することができる。

[34] BLT, p. 121.

T のほうが F46 より CŽg に近いことは, 第 2 の奇跡の最初の部分の例でも示唆される。

CŽg: Edin' že od nih' plnь êrosti i reče imь ako mene poslušaete ... (p. 203)

「かれらのうちの一人が憤って彼らに言った, もし私の話に耳を傾けるなら…」

これに対応するロシア写本は

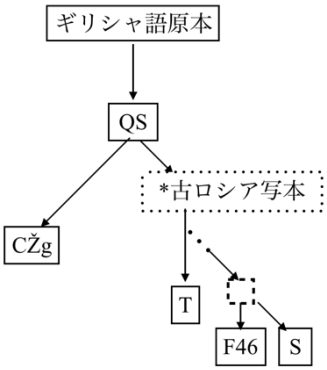
F46: ѥдинъ же ѿ нихъ испълнисѧ гнѣва гл҃ѧ къ нимъ… (f.112a)

T: ѥдꙗ҃ же ѿ нихъ испо҃нисѧ ѥреси и ре҃ѥ и҃… (p. 8)

この部分の CŽg では「憤り」に êrost' (OCS: ѣрость) が用いられており, これは BLT の πλησθεὶς ὀργῆς「怒りに満ちて」に対応する。OCS でも ѣрость は ὀργή の訳語として用いられていることから,[35] この訳は自然なものと考えられる。さて対応箇所の F46 は гнѣва, いっぽう T は ѥреси「司祭」である。前者は ѣрость の同義語であるとして, 後者はあきらかにこのままでは意味をなさず, 誤記と考えられる。そこでもしこれを, もともとあった ѣрости の写し間違いとすれば, これも CŽg と共通する点に加えることができる。

かりに T が F46 から直接伝わったと考えると, T と F46 の不一致, そしてまた T と CŽg の一致は説明できない。むしろ F46 は QS から発した後で書き換えられたヴァリアントであり, T のほうがより QS に近い形を残していると考えたほうが, これまで見てきた写本間の異同を適切に説明できる。

以上から APA スラヴ圏写本の関係をまとめると, 図 2 のようになるだろう。



［図 2 APA スラヴ 4 写本の系譜］

5. まとめと QS について

本論では, 現存する APA のスラヴ語 4 写本の比較から CŽg とロシア 3 写本が同じ一つの起源をもつことを確認した。クロアチア・グラゴル派の世俗テクストには, 西方教会・

[35] Zoe Hauptová (hl.red.), *Slovník jazyka staroslověnského*. IV. (Praha: Akademia, 1997). p. 956.

西欧起源のものがあるいっぽうで, 東方教会圏スラヴ世界に発したものが含まれるが, この APA もその一つであることが明らかになった。

ロシアに断片的な写本が 3 本しか残っておらず, いっぽう物語のほぼ完全な写しである CŽg はチャ方言の強い影響を受けているため, スラヴ語訳 APA を再建することは望み薄だが, 残された資料と, これらの写本の分布から QS についてどのような事が言えるだろうか。

まず F46 が 12 世紀頃の成立であることをふまえると, QS は当然これに先立つ時代に作られていなくてはならない。ロシア写本に見られる語彙的古さ: **вълѣсти, възьрѣти, зѣло, обрѣшти, аеръ, негъли** や, 独立与格構文の使用などは, QS が OCS の文語伝統を受け継いだ訳者によって作られたことを示していると言えるだろう。このことは, 第 3 の奇跡のエピソードの中で引用される福音書の言葉にも表れている。

キリスト教嫌いの金持ちオニスフォルにペテロが思わずロにするイエスの言葉は「金持ちが天の門を通るよりらくだが針の穴を通る方がたやすい」という福音書のものだった。これは F46, S で次のように書かれている。[36]

F46: **ѥдино гл҃ю тебѣ оудобѣѥ ѥсть вельбоудоу сквозѣ иглѧнѣ оуши пролѣсти негли богатоу дш҃ю своюсп҃сти или въ цр҃тво нб҃сноѥ възнити** (f.112d)

S: **азъ ѥдино тобѣ гл҃ю оудобѣ ѥсть вельблуду вьсквозѣ иголнѣи оуши проити негли бт҃у дшю своюсп҃ти или во цртво нб҃ноѥ внити.** (f.25v)

これに該当するマタイによる福音書（19:24）の OCS 訳を見よう。

Codex Marianus: **пакы г҃лѭ вамъ · ѣко оудобѣе естъ вельбѫдоу · сквозѣ оуши игълинѣ проити · неже богатоу въ цс҃рствие бж҃ие вынити**[37]

Саввина книга: **ѩко оудобѣе естъ вельбѫдѫ скозѣ иглинѣ оуши проiти негъли богатоу въ цр҃ствие бж҃ие**[38]

ロシア写本では「金持ちが己の魂を天の国に入れる」という他動詞構文が書き加えられているほか, OCS の божие が небесное に置き換えられている以外は, OCS の翻訳をほぼそのまま継承している。

QS の言語的古さの証拠には, CŽg に見られる双数の使用も加えられる。3-1 で述べたように CŽg は古教会スラヴ語由来の文語とチャ方言の混交言語で書かれており, より古い写本の姿を再現することは難しいが, この中で, 双数形が用いられている箇所がある。その一つは冒頭の, ペテロが異教徒の町の門前で老人と話をする場面にある。

---

[36] BLT: εὐκοπώτερόν ἐστιν κάμηλον διὰ τρυμα λιᾶς ῥαφίδος εἰσελθεῖν ἤ πλοίσιον εἰς τὴν βασιλείαν τοῦ θεοῦ εἰσελθεῖν (p. 123); CŽg: Azь edinoju govoru, da e lagle vel'bludu skoze uši igleni proiti nego li bogatoju v crstvo božie vnit (p. 204/205).

[37] Vatroslav Jagić, *Quattuor Evangeliorum versionis palaeoslovenicae codex Marianus Glagoliticus characteribus Cyrillicis transcriptum* (Sanktpeterburg, Berolini, 1883), p. 68.

[38] *Щепкин В*. Саввина книга. СПб., 1903, С. 29.

A voli č'ê esta? Otveća starac': moê nesta da esam' e naelь (p. 201)「この牛は誰のものか? 老人は答えて, 私のではなく（それらは）借りたのです」; An'drei biše za volma (p. 202)「アンデレは牛の後ろに立ち」; pred' nogama ap(osto)lь (p. 202)「使徒の足元に」。[39]

これに該当する箇所は BLT で oi βόες σοί εἰσιvm など「牛」に関する表現は複数形だが, CŽg の対応箇所は双数形（voli č'ê esta, moê nesta）である。CŽg が成立した 16 世紀までにチャ方言で双数は消失していることから, [40] CŽg に現れる双数は CŽg の写字生の言語的影響ではなく, より古い写本にあった形の名残りと考えられる。

双数の例は CŽg でもう一箇所, 第 3 の奇跡のクライマックスに現れる。

CŽg Videv' že Petarь iglu položenu i velbuluda stoeće i vzapi glasom' veiemь… I otvorista se uši igli i biše êko vrata veliê i proidê velbludь (p. 205)

「ペテロは針が置かれラクダがそこにいるのを見て, 大声で呼ばわった。すると針の穴（"耳"）が開き, 大きな門となり, ラクダがそこを通り抜けたのだった」

ここに対応する BLT は Τότε ἡ τρύπη τῆς ῥαφίδος ἠνοίχθη ὡς πύλη καὶ διῆλθεν δὶ αὐτῆς ὁ κάμηλος ὁ ὄχλος ἐθεώρει (p. 124) で「針の穴 (ἡ τρύπη τῆς ῥαφίδος) が開き」はもちろん単数形である。「針穴」がスラヴ語で「耳」に訳されるため, CŽg では動詞にも双数形 otvorista se が用いられている。語尾-sta は, 先の場面での esta などと同様, OCS の古形では本来 2 人称語尾で, 3 人称の場合に期待される語尾は-ste である。したがって CŽg の-sta 形は, もとの古い形がどこかで変化した結果かもしれない。しかし OCS でも最古期のマリア写本など以外ではすでに 3 人称語尾に-sta が確認されており, [41] ここでの-sta 語尾もこうした慣例から生じた, QS にもともとあった形の名残という推測も成り立つ。 いずれにしても, ここでのポイントは, ギリシャ語で単数形で現れる「穴」や複数の牛に関する表現にあきらかに双数が使用されている, つまりおそらく APA がスラヴ語に訳された時点で, 双数はまだ OCS 時代のようにアクティヴなカテゴリーであったということである。上記の「牛」に双数形が使用されているのも, 最初の訳者が畑を耕す牛 2 頭立ての鋤を思い浮かべ, 原文で複数だった箇所に双数を用いたのではないかと推測されるのである。

以上からして, APA のスラヴ語訳は, 古教会スラヴ語の伝統を引き継ぎ, ビザンツからさまざまなテクストが伝えられ翻訳された場所で, 12 世紀に先立つ時代に作られたことになる。本論ではこれ以上の確たることは言えないが, APA と同ジャンルの使徒アポクリフ伝道物語として知られる『アンデレとマティアスの人食い人の町への伝道』や『使徒トマ

---

[39] T の対応箇所はそれぞれ а волы твои ли есть и рече старець нанѧ̂ есмь; адрѣи же за волы; паде к ногама ѝ (p. 6) で，双数の使用は「足元に伏して」の箇所にしか見られない。

[40] A. Kapetanović, "Čakavski hrvatski književni jezik," in *Povijest hrvatskoga jezika 2. knjiga: 16. stoljeće*. (Zagreb: Croatica, 2011), pp. 77-123 (とくに p. 93).

[41] André Vaillant, *Manuel du vieux slave. T. 1, Grammaire* (Paris: Institut d'Etudes Slaves, 1964), p. 228.

のインドへの伝道』などがいずれも , バルカン南スラヴキリル文字圏の写本で残されていることからすると, APA にも, バルカン南スラヴキリル文字写本が存在したことが推察される。少なくとも CŽg のもとになったキリル文字写本は南スラヴ圏内から伝播したと推測される。

QS がどこでいつ成立したかについては, F46 の前後にある『聖ペテロとパウロの物語』や『預言者イリヤの伝記』などの系譜を探るなど, さらなる関連テクストの写本研究が必要であろう。

“Apocryphal Acts of Peter and Andrew in the City of Barbarians”: A study of Slavonic tradition

MITANI Keiko

This paper examines the Slavonic translation of the “Apocryphal Acts of Peter and Andrew in the City of Barbarians (abbreviated as APA)”, one of the apocryphal acts of Jesus’ apostles, which emerged in the period from the third to the fourth C.E. against the background of the rising cults of apostles in early Christianity. The Slavonic evidence of APA is found in four copies: one full version, written with the Croatian Glagolitic script and dated around 1520, and three Russian fragmental manuscripts, composed from the 12th to the 17th centuries. The Croatian Glagolitic copy is mostly in concord with a Greek recension dated to the 15th century, but its language is vernacularized under the strong influence of the local Čakavian dialect. In contrast, the Russian copies, although fragmental, retain orthographic and lexical features of the Old Church Slavonic texts, indicating that the Slavonic translation of APA appeared no later than the 12th century in the place where the Cyrillo-Methodian tradition was still active. Our critical study of these texts reveals that the four extant Slavonic copies were derived from one common Slavonic source written with the Cyrillic script. The Croatian Glagolitic copy descended from this first translation; furthermore, the Old Russian protograph from which the Russian extant copies were made was derived from this same source. The comparison of the four Slavonic copies and the 15th century Greek copy allows us to conclude that the youngest of the three Russian copies is closer than the two older copies to the Old Russian protograph, whereas the oldest one reflects a version that contains more lexical alterations.